

(Lonely Night Gathering)

やのなしい夜の句会報 第239号 (2025.9.14-2025.9.21)

- ◆ 参加者: クイスク、しまねいへん。宍戸のみき、ナル、あづみの
マルコ、くわせひこ、あ 個、美轟角(みのつねかく)、涼、笛地
静恵、鈴木正臣、汐田大輝、akao souko 守宮、西脇祥貴、ゆ
うたま、Nichtrachedchen、しろねとしも、西沢葉火、しんいち、
蔭一郎、天然石アクセサリーkids リコシェ、季川詩音、石川聰、
池田空波 (hyuutoppa)、石原としき、Nichtrachedchen、佐井杜有、
東ひろひば、青山美樹、秋月祐一、徳道かづみ、ひじゆき、片羽
雲雀、ねむい、宮坂委哲 雷ひこ、nazmo 青海波、ねるのい
つ、都まなひ、najini 月階袖 支配者の女、その遺影。、水の
眠り、霧雨魔理沙、アリタ別館 岡村知昭、水落瑛、非常口ド
シム、ARIA、もりや、res 不思議な話のAIN、山田真佐明、
高田(とき)、まじけい、なむわい、憚譚之傍見、雪夜彗星、星野
響、たけいまどか、わたなべじゅんこ 屋久島旅人ガイドの太
田わふ、ロマさん、庶民、かん塾、月波与生 (七〇名)

◆川柳・俳句

- マイクスタンドに住み込む悪の杖 クイスク
エニシダの炭火まじろむ死にたがり クイスク
巨峰から北海道へ名義変え クイスク
秋祭バッドエンドのつかみじり 星野響
近づいて、おなじ煙草の匂いでしょ 片羽雲雀
汚れてる羽根ごときつく抱きしめて 片羽雲雀
今死んであげたのが中島みゆき 西脇祥貴
ぶちまた崩壊みたいパプリカは 都まなつ
からだからからつぽになるだからから 都まなつ
きつね火を鍵にしなくちや閉めれない 都まなつ

虹になる輪廻は二百円かかる 都まなつ

滋賀県のあたりがちよつと痛むんだ 秋月祐一

箱庭にからず蟹を置きたがる 秋月祐一

する休み猫のおでこのにほひ吸ひ 秋月祐一

赤羽の朝のなまづとモヒートと 秋月祐一

萎えた日もフーセンガムに吸い取られ しろとも

原液のまま夏だけを片づける しろとも

るるんとなまこなんでしょ 石原とつき

世界の終わりを体毛で感じる 汐田大輝

ハイリスク市場に鯉を泳がせる 汐田大輝

あざらしの心になれば恥を知る 汐田大輝

かたちだけ蛇のようだが真人間 汐田大輝

ジャンキーが都営大江戸線ガン見 汐田大輝

脱皮してドーナツになる赤血球 アイン

大福を食うリアル 河童の惰弱 アイン

落ち武者にアツパーカットの洗礼 アイン

アメリカザリガニが取り戻す密書 n e s

脳内に百のしやもじを並べれば n e s 岡村知昭

ヒトたくさん熊たくさん駅に着く 空野つみき

楽しそうですか少女芝居つづく 空野つみき

月面を破いて日記帳にする 空野つみき

ばけものじやないよ少女のかたちだよ 空野つみき

蜃気楼だと知つていて目を合わす 空野つみき

人として居る猫カフェにて ねるのいつ

端堁の顔は思考の現実化 しまねこくん

柿の皮だけで何とかする下着 しまねこくん

太刀魚は曲げれば入る洗濯機 しまねこくん

空耳の耳のかたちをしてる石 蔭一郎

千の手のすべてについたスピーカー 蔭一郎

漁師らと酒飲み交わすたつちよたち 蔭一郎

うつくしい既読がついて金曜日 東こころ

しなちくを噛めばあふれる重力子 佐井杜有

*

街の隅迷子のひとつ歎枯らし ナル

灰になる口づけひとつ長引かせ あづみのマルコ
年を経て同じ野にあれすすきの穂 美蟲角

朝食の後片付けがめんどくせえ 涼

ショッピングカートの長い坂を走る初秋 笛地静恵

赤い羽根つけ善人の笑み作る 鈴木正巳

肩書きは何も要らない曼珠沙華 akao

くるぶしに鎖骨が会いに行きたがる souko 守宮

秘密だよゴジラも通うネイルサロン ゆうたま

あなたの方がライカ犬 Nichtraucherchen

切つても切つてもレモン彗星 しんいら

自転車のライトの幅が僕の幅 リコシエ

人生の始発がいつまでも来ない 季川詩音

白飯に醤油目玉焼き子規の忌 池田突波

肺の底からの鎧が脳ぶつ刺す 石川聰

チューハイを開けてはじまるひとつときが 青山美樹

きみがため手折りし花の 葉をおもう ねむい

じんわりと煙草が美味しい秋の風 宮坂愛哲

台本にない役であなたの顔になる 雷

秋の駒エンドロールに米を炊く HEZU HI

運命線の内側で 西沢葉火

洗剤が生まれ来る子を待つて待つて najimi

鰯雲 海遊館を 思い出す 霧雨魔理沙

眠れぬ夜に煮凝った夢 アリタ別館

声をかけられぬ定点観測 もりや

まち針を胸に刺さつた抜いてくれ なさわ(

マツチの日茶臼の猫を貰い受け まどけい

熱帯夜人の温もりのみ漬む 雪夜彗星

十六夜の月よ誰もかれも淋しい たけいまどか

*

五分後のぼくにシャットダウンされる 月波与生

◆ 短歌

今ぼくの背中に中指で触れた？ ミの鍵盤になつた気がした 懼譚之傍見
ゆで卵黄身とヒヨコと同じ色並行世界で隣を見ない 青海波
掌に集めたビー玉空に投げ割れるまでをたぶん夢という
青海波

*

うたうだけがじんせいだとわらつてますぼくはひとりで
眼をつむればいつでも夜になる べろぼっこ
広がつた髪より深い黒色の霜が降りてる土に埋もれて 個

最期に耳に残るのが遠く聴いた母の心音で ありますよう
に 天然石アクセサリー kiki's

逃げ下手はひとつを極め、 逃げ上手は未来を増やす。
天然石アクセサリー kiki's

泣きながら乗つた地下鉄あの時に乗車していた人たち ご
めん 鈴音

朝露をどうして夜は生むのだろう深き祈りを嘲笑うごと
ひいらぎ

今日という日はもう終わり錠剤に託す現実逃避の旅路 水
落瑛

寝息より大きい音のない部屋におきやあの声が生まれて狭
く 非常口ドット
涙味まろくな夜に背徳のボンボンショコラ夢とろける

ARIA

◆詩・短文

崩れるように空は夕景

かなかなは答えを知らない

胸底のおりを

誰も触れない

菫が山へ光をおくり
私が北へ帰りを待つ

答えるように朝は青く
かなかなはまだ答えを知らない
腰のあたりで
晩夏が光る

菫は山で挽歌と光り
私は声を帰らずに待つ

山が答える
おはよう、おはよう（山田真佐明）

貴方が今悲しみの中にいるのなら、そばになにか救いになるものがありますように。この歌も少しは貴方の夜に月光の毛布をかけられますように。（月階樹）

こわいのなら一緒に目を瞑ろう 手はつなぐ必要もないだろう？（支配者の女 その遺影。）

いちじくのいろのみず

砂に滲みてもあまい
星はひかりおわった
朝までは消えない日

窓を、見れば会えるよ

(高田つき)

◆作品評から

あなたの方がライカ犬 Nichtraucherchen

「いろんな捉え方があると思いますが、もしかしたら皮肉を込めているかもしません。「なんであの犬が亡くなるの。あなたが代わってあげてよ」って。嫌いな人に言い放っているのかもしれません。(季川詩音)

原液のまま夏だけを片づける しるとも

「今年はすぐ暑かつたから薄めて片付けたいと思いました。でも、思い出までは薄めたくないです。同じ夏でも今年と来年では違います。一期一会なんですね。だから原液のまま片付けたいです。(季川詩音)

柿の皮だけで何とかする下着 しまねこくん

「大事な部分がしつかり隠れるかが不安ですね。いずれにせよ、職質のターゲットになりそうです。「下に何か隠してますよね?」ってなるんでしよう。「いいえ、果物の皮です」って。ありえないです。(季川詩音)

千の手のすべてについたスピーカー 薮一郎

「寂しいのかもしれないけど結果的にぎやかすぎるのでは??(笑)スピーカー100°。しかも一点集中で狙つくる音響で破壊力は抜群! (わたなべじゅんこ)

最期に耳に残るのが遠く聴いた母の心音でありますように 天然石アクセサリー kiki's

自分がいなくなるとき、両親はきっとといいでしよう。自分は親に見守られることなく旅立つ。だからこそ、親の心音を感じたいのかもしれません。最後に残る感覚は聴覚と聞いたことがあります。思い出せたら良いなと思います。

(季川詩音)

人生の始発がいつまでも来ない 季川詩音

～運ううん 終着・執着は見えているのに 始まりが来ないの値（屋久島旅人ガイドの太田さん）
～どこに行きたいかがわからないと、ホーム（番線）も違うから始発の時間も違うのかもね（コマさん）

チューハイを開けてはじまるひとときが 青山美樹

～缶を開けてからすでにひとときははじまっていますね。それは大人だけの時間なのかもしれません。においや、音、そのすべてが疲れをふき飛ばしてくれます。（季川詩音）

蜃気楼だと知つていて目を合わす 空野つみき
～目をそらす ではダメ？（蔭一郎）

赤羽の朝のなまづとモヒートと 秋月祐一

～場所も生き物もがいますが、百聞先生の『東京日記』に片岡義男きた！ というなぞの高揚をおぼえました！（西脇祥貴）

蝶螂の顔は思考の現実化 しまねこくん
～カマキリの三角顔。 思考の現実化。か、なるほど。

蝶螂の鎌 やつていれば、顔も三角になる。（庶民）

歴代の春樹の頸を鉢に挿す 汐田大輝
「村上」と角川くらいしか思いつかないが「歴代」という
からにはズラリと春樹が並ぶことだろう。しかも頸。なに
が始まることやら。（月波与生）

直さずに読む鏡文字秋の夜 紺野水辺

「すこし昔水森亜士さんという漫画家がいて彼女も鏡文
字を書くのが速かつた。ひらがなですが。「直さずに読」
めるのは鏡の国から来たからか。（月波与生）

太刀魚は曲げれば入る洗濯機 しまねくん

「洗濯機の中で、太刀魚がぐるぐる回っている様子が浮
かんできます。洗濯機に曲げて入れられて、それでも泳ぎ
たい、それでも生きたい。曲げて入れて、洗つてしまえと
思ったのは浅知恵でした。命の限りぐるぐる回る太刀魚を、
ヒト風情が止められはしないのですから。（岡村知昭）

アメリカザリガニが取り戻す密書 n e s

「アメリカザリガニが取り戻す密書」 密書奪還の任
務完了のザリガニ。取り戻した密書は、己がハサミに固く
握りしめる。簡単ではなかつた。ハサミも体も、傷ついた。
でも今は、痛みよりも喜びが大きい。さて、この密書の内
容はいつたい何。ザリガニ、どうも聞かされていなさそう。

（岡村知昭）

脱皮してドーナツになる赤血球 アイン

「脱皮してドーナツになる赤血球」。ドーナツが脱皮
したら赤いのかもしれませんし、赤血球が脱皮したら茶色
いのかもしれません。また、ドーナツと赤血球の形に注目
してみると、数学でいうとトポロジーの面からもアプロー
チができたりするのかもしれません。（季川詩音）

倉庫に香水の残り香ある張り紙 雷

「残り香の主はパートおばちゃんたりしますがこう
いう一人時間差攻撃的切り取りが非常に上手い。「倉庫」
は現実的にそだつたんでしようが亞めてもよかつたかも
（月波与生）

だるまさんがころんだ 脳に風穴 アイン

「4コママンガのような進み方です。「脳に風穴」の訳
はまったくわかりませんが読み手にもだるまさんの脳に風
穴が開いているのがはつきり見えます。（月波与生）

死の陰に座す夜汽車溶け去る クイスク
縁側に濡れたこしが並び立つ クイスク

「こちらは観念的なことを書いているのだけど具象の使
い方が象徴的でなんとなくわかつたような気にさせる笑。
「夜汽車溶け去る」なんてスゲーなど感心。（月波与生）

鳥籠にピアノを置いてほしいです 空野つみき
シロップを羊の群れにかけるだけ 空野つみき
「具象のサイズを歪めた句。鳥籠⇒ピアノは固体なのだ
けど、シロップ⇒羊の群れは形が変化していくものでうま
くいってると思う。（月波与生）

滋賀県のあたりがちよつと痛むんだ 秋月祐一

「こういう場合でもやつぱり痛み止めの処方が必要な
でしようか。あの滋賀県のことなのか、あるいは身体を滋
賀県にたとえているのか。笑い」とじやないのに「ふふつ」
となりました。（季川詩音）

漁師らと酒酌み交わすたつちよたち 蔭一郎

「タツチよたち、どうやつて食つているのかな、とちよ
つと思いました。骨が多い魚でしたか?」(二かん塾)

ぶちまけた崩壊みたいパプリカは 都まなつ

「パプリカの、あの形状を「ぶちまけた崩壊」と見立て
た感性が凄いなあとと思いました。それとは別に、掲句か
らアニメーション映画の『パプリカ』を思い出しました。
あの行進シーンはぶちまけた崩壊っぽかつたなあと。」(石

川聰)

近づいて、おなじ煙草の匂いでしょ 片羽雲雀
「同じ匂いってなんだか安心しますね。しかも、同じメ
ーカーのものを使っている。親近感がありますね。そして、
ヤンキー系の女性が少しビビリな男性に声を掛けているシ
ーンを思い浮かべました。(季川詩音)

逃げ下手はひとつを極め、 逃げ上手は未来を増やす。
天然石アクセサリー kiki's

「すごく素敵な考え方ですね。逃げることも、逃げない
ことも恥ずかしいことじゃないんだよって。「逃げ上手は
未来を増やす」、確かにそうかも。この考えがもっと広ま
つて欲しいです。(季川詩音)